



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



マリアに倣い他者への思いを巡らせよう

司教が元日の星塚教会ミサでメッセージ

郡山健次郎司教は1月1日(金)、鹿屋市の国立療養所星塚敬愛園にある星塚教会(鹿屋巡回)で元旦ミサをささげた。カトリックでは、元旦は「神の母聖マリアの祭日」にして「世界平和の日」でもある。郡山司教は2016年「世界平和の日」教皇メッセージに沿うとともに、当日の福音朗読から聖母マリアに関する一節を引いて説教。「マリアさまのように、世界中を駆け巡るくらいに、他者へと思いを巡らせてほしい」と語った。

また、人々をいづくしむように、地球の自然や環境をいづくしむ重要性に言及。「人間に限らない他者

3月4日から5日にかけて 主にささげる二十四時間を実施

郡山司教は先ず、昨年12月の星塚教会創立60周年記念祝賀会に出席できなかったことを会衆にお詫びし、ミサの司式を始めた。元旦は、「神の母聖マリアの祭日」にして「世界平和の日」でもある。司教は、「無関

心に打ち勝ち、平和を獲得する」をテーマとするフランシスコ教皇によるメッセージを紹介しながら説教。「平和は神の賜物」との教皇の言を引き、「人間に謙虚さと思いやりの心がなければ、平和はない」と話し

ささげる二十四時間である。これは「四旬節第四日に先立つ金曜日と土曜日に行われる」と指示されており、三月四日と五日に当たる。

おめでとう！フランシスコ神学生

一月五日めでたく助祭に叙階

参加は自由だが、少なくとも三十分間は礼拝してもらおうとし、また空白の時間が生じないようにする。

ため、参加希望者は予め教区本部の末吉卓也神父までファックス(099)九九二二五〇〇四四〇)かメール(kagoxavi@po5.synapse.ne.jp)連絡する必要がある。

午後二時から始まった叙階式には、三百人の司祭団と一万五千人の信者が駆けつけ、新しい司祭十一人、助祭十九人の誕生の瞬間に立ち会った。鹿児島からも郡山司教、末吉神父ら数人が駆けつけ、フランシスコさん出身のチョンバルサン教会の信者たちと喜びを共にした。

長崎管区司祭集会

一年間の兵役で陸軍特殊部隊に身を置き、除隊後は貿易会社に勤務した後、大学や英語学院、数学学院で教鞭を執った。司祭職への夢を捨てられなかったフランシスコさんは、鹿児島教区の門を叩き二〇一〇年三月から仁川カトリック大学で学

一月十三日(水)、福岡の大名町教会で長崎教区司祭集会の準備会が開かれた。同集会は、今年の十月二十五日(火)から二十七日(木)まで開催される。テーマは、昨年十一月長崎教区司祭集会で出された「教区編成と司祭間の交流を考えた」として、場所は当初沖縄とされていたが、定期的な集まりが確保できず、福岡になった。集会の形式についても案を作り、長崎教区司祭団に提出し、臨時司教総会時に検討してもらった。

修道会便り

岡俊郎神父(イエズス会)は純心聖母会鹿児島修道院から広島長束修道院へ、関根悦雄神父(イエズス会)は二十六聖人修道院から純心聖母会鹿児島修道院(チャプラン)へ。いずれも二月一日付

一月五日に韓国で助祭に叙階されたフランシスコ朴聡奎師の司祭叙階式を今年の九月二十二日(木)午後二時から鹿児島カテドラルで挙行することが、一月十二日(火)に行われた教区司祭会で決められた。

司祭叙階式は9月22日

一年の最初のミサを星塚教会でささげる司教
和装した司教と記念撮影



①一年の最初のミサを星塚教会でささげる司教
②和装した司教と記念撮影



「福音の種は蒔かれた」(2)

レデンプトール会 谷山教会主任司祭 トマス頭 島 光



イエスとの人格的な出会いはみ言葉が人となることと、ある意味、表裏一体化した一枚のペーパーのようです。つまり、私は確かにイエスに出会ったのです。同時にその出会いの裏には神のみ言葉が透けて見えるからです。人としてのイエスは私たちの魂の奥深くに蒔かれた神のみ言葉なのです。だから、もし霊的な深みに入りたければ、内に向かう内的祈りが必要です。それは心の奥底に響いている、み言葉との内なる対話をする、すなわち内なる神に問うて祈ることです。

パウロがキリスト者を迫害しているその最中のことです。彼はキリストと出会って「主よ、あなたはどなたですか？」（使9:5）と問いかけました。私たちにもこの問いかける祈り、繰り返す祈りが必要で、この内的な祈りが繰り返しなされないなら、あなたの中のみ言葉は色あせ、無味乾燥化し、やがて消え失せることでしょう。すぐに答えが返ってくるわけではありませぬので忍耐が必要で、しかし、必ずみ言葉はあなたの中で働いて、霊の力によって恵みが注がれる時が来ます。そのとき、あなたは神の愛を身近に体感し、霊と交わる喜びを共有することになるでしょう。

魂が新しい命に導かれるチャンスですから大切にしたいものです。今、まさに福音の力があなたの中で活性化し始めています。新しい息吹を芽生えさせるには十分なほどに、あなたの魂は育っています。福音が放つ固有の力は、実は人間を魂の内部から変化させ、その命を新しくするのです（EN18参照）。実に「福音化」の目的はここにあり、言い換えれば、魂の内なる変化です。

イエスが奇しくも最後の晩さんを執り行ったときのことです。「感謝してパンを摂り、割って弟子に与えて言われました。『これはあなた方に与える私のパンである』と」。まさに、この瞬間、小麦で作られた一片のパン切れに過ぎなかつたものが、キリストの生きたまの命のパンとなつたのです。これと同じように、私の魂の奥底においてみ言葉は神からの賜物として我が魂の内に霊的な命を吹き込み、罪の体であつた私を愛する心の人に変えてしまふのです。もはや、私とはこれまでこの肉の私ではなく、霊の私として新しい人となるのです。

このように一人の人が変えられていく過程には、福音の力が聖霊と共に働いて、私を変容させるのです。その意味で、福音そのものには実に固有の力が保たれていて、それは一個の独立した自立的存在とも言える

り、絶対的な真理であるがゆえに、この世的な権威、権力に微動だにしないのです。

以上のように、私の中に撒かれた神のみ言葉と生きたまの命とその確固たる福音の力とによって、私たちは次の霊的ステージに入っていくこととなります。この段階は悪との対峙であり、人間の力による圧迫に耐えるという段階です。

イエスは宣教活動に出向く前に神から荒野での誘惑を受けられます。荒野での四十日の断食の後、イエスは誘惑者の声を聴きます。

「お前は神の子なのだから、この石をパンに変えたらどうだ」。悪への誘惑の始まりはまさに完璧というべきでしょう。なぜなら、悪は決して自らが悪事を働くことをせず、悪事は神が愛する一人息子のイエスにさせようとするからです。このことよって悪事が成立すれば、イエスを愛なき神の子とすることになります。悪はイエスを悪人にする

ことを目的として行っている。従って、悪事を働く人の中にはすでに愛が消え失せ、神に向かって生きていく力をなくしています。これこそが恐ろしい悪の現実です。この悪の恐ろしさはまさしく悪事を行って本人自身がそれを悪だと気付いていないことにあるのです。

私たちにとって大切なことは愛を保つことです。愛の力であるみ言葉と霊的体を生かす命のパンにつながるに神のみ言葉とキリストのパンにしっかりとつながっていることができれば、悪への誘惑を断ち切ることができるようでしょう。神の口から出たみ言葉は、いつもあなたがたと共にいるのです。

この福音的現実をしっかりと自身の内的生命として捉え、かつこれを共有、共感できる真のキリストの友を見つけてみましょう。このこそ、福音を伝道しようとするあなたの協力者であり同伴者となるからです。

もゆる山路を聖地への旅かなはざりし亡き妹を想ひ木のマリア像やさしく磨く

洗礼を受ける身となり十字架を担う身となり救いの聖子よ

この福音的現実をしっかりと自身の内的生命として捉え、かつこれを共有、共感できる真のキリストの友を見つけてみましょう。このこそ、福音を伝道しようとするあなたの協力者であり同伴者となるからです。

主の恵み木組の天井の花
祈りの意向

主の恵み木組の天井の花
祈りの意向

主の恵み木組の天井の花
祈りの意向

主の恵み木組の天井の花
祈りの意向

会と催し (2月)

- 2日(火) 主の奉獻
- 4日(木) ボツファイ神父命日(一九八八年)
- 5日(金) 日本二十六聖人殉教者
- 6日(土) 正義と平和協議会錬成会・教区本部・13時
- 7日(日) 年間第五主日
- 10日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎)

- 11日(木) 世界病者の日
- 12日(金) 国分教会献堂式・13時
- 14日(日) パードレピオの集い・聖心教会・12時30分
- 16日(火) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 19日(金) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 21日(日) 宣教学校・ザビエル教会・14時30分
- 22日(月) 奄美の宣教司牧を考える会
- 23日(火) 奄美の例會
- 27日(土) 聖ペトロの使徒座
- 28日(日) 奄美例會

- 22日(月) 聖ペトロの使徒座
- 23日(火) 奄美例會
- 27日(土) 聖ペトロの使徒座
- 28日(日) 奄美例會

【フベナ】豊かな四旬節のため(8/17日)
【祈禱の使徒会】世界共通・被造物への配慮

ザビエル書院から休店のお知らせ

諸事情により、書院は一月二十五日から二月末まで休業させていただきます。ご了承ください。
尚、「毎日のミサ」の定期購読を申し込まれている方は、ザビエル教会事務所でお渡しいたします。

文芸

短歌

溝辺教会 松元 史江
星のように愛降る宇宙の気の中に人類は住んでいらずなのに
さんさんと陽は万物に降りそそぎ愛を伝える神のみわざを

国分教会 市来 房枝
諸々の人智の結晶相俟つて落成叶ひし吾らの教会
世界中悪事の多き世を憂ひ「聖年」早めき
フランシスコ法王は
鹿兒島純心 川上 和
莊嚴に「いつくしみの扉」開かれて御心に
触るる想い深めつ
鴨池教会 前田 儀子
神求めし日の肩あげ歩むなり木草も若葉

俳句

国分教会 政 ノブ子
主の恵み木組の天井の花
祈りの意向
まぶねより羊飼い呼ぶ御子さま
吉野教会 徳永ノブ子
へたな句も推敲重なる去年今年
初ミサや寄り添うところおだやかに
大晦日老いを囲みて子孫かな

神のみ旨、教会、家族について考えた!

中高生が冬のキャンプで学習

教区青年会(岩崎信幸会長)は2015年12月27日(日)から28日(月)、谷山教会で「中学生冬キャンプ」を行った。同年8月に川内内で実施したキャンプの続編。テーマを「出会い、そして…」と題し、教区の中学・高校生を募集、主のご降誕の季節に相応しいワークショップなどのプログラムを通して自らの信仰を見つめ直すとともに親睦を深めた。

教区中高生キャンプは8月に引き続き第二回目。海水浴や花火などで盛り上がった夏キャンプ同様、冬キャンプも季節感あふれるプログラムだった。

初日、参加者は谷山教会に集合。アイスブレイクやレクリエーションを通してすぐに打ち解けると、それぞれにとって「今年の良かったこと、悪かったこと」を考えるワークショップに取り組んだ。またこれを「神さまの視点で捉えるとき、どう映るか?」と考え、分かち合いに。参加者は、人間の思いを超えた神さまの計らいに思いを馳せた。



有意義な時を過ごした中高生たち

夕食はつみれ鍋、海鮮鍋、焼き餃子など。餃子は中高生自らの手でキャベツやニラを刻み、皮で包んで手作りした。

第二日はごミサから、谷山教会主任司祭頭島光神父が司式、中高生二人が侍者を務めた。頭島神父は説教で「主のご降誕を祝う日々をここ(谷山教会)で過ごす中高生の皆さんが、キャンプを通して、み言葉をこの世に表す人に育って欲しい」とメッセージした。

朝食後はワークショップ(手紙を書く)に取り組んだ。テーマは「あなたにとって家族とは?」。参加者は実際に家族の一人ひとりに宛て手紙をしたためた。その後の分かち合いでは、それぞれが書いた手紙をもとに、家族への思いを語った。またそれを通して教会を考え、さらには神さまの思いというものを思い巡らした。

昼食は、中高生がお好み焼きを手作り。約40枚焼き、すべて

を平らげて解散した。参加者は中高生7人、スタッフ9人(「元青年」の乱入含む)、司祭3人。参加した増田綾さん(高校2年)は「超楽しかった。来年はもっと中高生が集まると嬉しい」と笑顔。小中学校生の岸龍之助さん(中学2年)は「神父になるだけが神さまに仕える道ではなく、キャンプを企画した青年会の方々のように神さまにこたえることもできる」との意見を喜んだ。橋本佑太朗さん(高校1年)は「血縁ではない共同体である教会の素晴らしさを実感するために認識した」と話した。

お帰りなさい神父さま

田邊徹神父が長崎から帰鹿

田邊徹神父さま(89)が、長崎の純心聖母会・恵の丘修道院から帰鹿されました。現在、指宿教会に近い集合住宅に居住。郡山健次郎司教ほか、司祭二人が12月30日(水)、訪問しました。とてもお元気な様子でした。

田邊神父さまは現在、鹿兒島教区で最高齢の司祭。1926(大正15)年生まれ。1951年に司祭叙階され、聖心教会、ザビエル教会などの主任司祭を歴任



(左から)美島神父、田邊神父、郡山司教、アン神父

と嬉しうと笑顔。小中学校生の岸龍之助さん(中学2年)は「神父になるだけが神さまに仕える道ではなく、キャンプを企画した青年会の方々のように神さまにこたえることもできる」との意見を喜んだ。橋本佑太朗さん(高校1年)は「血縁ではない共同体である教会の素晴らしさを実感するために認識した」と話した。

されました。2005年、長崎の純心聖母会・恵の丘修道院へ。今年12月、帰鹿されたばかり。

田邊神父さまは酸素吸入器が手放せませんが、至ってお元気な様子。主のご降誕ミサでは、共同司式もなさったとのこと。言葉のやりとりにも難なく、司教さまや神父さまがたと思ひ出話に花が咲きました。

田邊神父さまのお部屋からは指宿教会も見えます。

献堂五十年と堅信を祝う

郡山司教を迎えて名瀬聖心教会

十二月二十日(日)、奄美市名瀬の聖心教会(永山幸弘神父)では、郡山司教を迎え、献堂五十年の感謝ミサをささげ、そのミサ中、中学生を中心に十五人が堅信の恵みに浴した。

現在の聖心教会が献堂されたのは、一九六五年の十二月十九日のこと。同教会は空襲(一九四五年)でフェリエ神父らが手がけイエズスの聖心に奉獻された

「レンガみどう」と呼ばれた聖堂を、また名瀬の大火(一九五五年)でカプチン会によって建てられた戦後初の聖堂と二度も聖堂を失った。一九六五年に建てられた現聖堂はコンベンツァル会の働きで多くの寄付を集め、総工費四千五百万円で建設されたもの。

献堂記念と堅信のミサ中で説教した郡山司教は、「いつくしみの特別聖年に

受ける堅信を大切にしよう」と述べ、「フランシスコ教皇のようにイエスの心に私たちの心を合わせ、心を元気にして、生き方を改め、平和を作る努力をしよう」とメッセージを送った。

高山右近の列福を承認

教皇フランシスコは、一月二十一日(木)キリシタン大名ユースト高山右近(一五五三〜一六一五年)を殉教者として正式に認定し、福者の列に加えることを承認する教令に署名した。

今後、日本カトリック司教協議会では教皇庁と協議しながら、列福を公式に宣言して祝う列福式の日取りや記念日などを検討していくという。

司教執務室便り

ベトナムの教会



クリスマスはベトナムで迎えた。二人の司教様と親しく語ることもできた。一人は、招待してくださったコントウム教区の司教様で、もう一人はニヤチャン教区の司教様。共産党政権下にある教会の責任者として、それなりに苦勞があるようだった。山岳地帯にあるコントウム教区とリゾート地にあるニヤチャン教区とは環境が大きく異なる。それだけに、二人の司教様の共産党との関わりにも違いがある。

山の司教様は共産党にとっては苦手な存在らしかった。なぜかは具体的によく分らないが、「聖地の整備も許可が出ないので進まない」と嘆いておられたところを見ると、政府に遠慮なく物を言う方なのかもしれない。しかし、何十万もの巡礼者でにぎわうマリア様の聖地にある広い駐車場は軍の設備だという。また、司教様は、溝辺の修道院を教区に誘致する計画を進めておられてすでに敷地の確保も済んでいる。修道院建設の許可も下り

たという。二百ヘクタールの敷地には、シスターたちの生活のための産物の胡椒も植えつけられ、四月からは収穫が始まるという。政権からの締め付けがあつたとしても、着実に計画を推進しておられる知恵の深さに感動した。

一方、町の司教様は政権とは良好な関係だという。クリスマスには、副知事が多くの部下とともに「クリスマスおめでとうございます」と挨拶に訪れるのが慣わしになっていると聞いて驚いた。そういえば、来訪中の昨年十二月二十五日の朝、車四台で挨拶に見えていたのがそうだったという。「カトリックの地域は社会問題も少ない」と教会の働きを評価したという。共産党政権の巧みな社交術はなかなかしたたかか。

したたかといえば、今回の訪問で、タイプの違う二人の司教様が共産党政権に劣らぬたたかきで教会を守り導いておられる姿に感動した。同時に、ベトナムの共産党に親しみを感じた。父の一番の親友が共産党のリーダーヤスタロウさんだったことが思い起こされたからかもしれない。

違いを克服できるいつくしみの年であらうと思ふ。

中高生の春の長崎巡礼

3月28~30日

費用: 15,000円

新中学1年生も参加できます。

問合せ: 泉 浩二神父

TEL.099 (257) 8097

6月に聖遺物を掲示

聖ヨハネ・パウロ二世と聖ファウステイナ・コヴァアルスカの聖遺物が全国で掲示されることとなった。鹿兒島では6月の掲示で検討中。



質問箱

質問 免償ってなんですか？

答え

特別聖年期間中の免償 教皇の大勅書『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』二十二には、免償が、いつくしみの特別聖年の期間中、とくに大切なものと述べられている。免償とは、すでにゆるされた罪に伴う有限の罰の免除(軽減)である。信者は、一定の条件を果たすとき、教会の奉仕職を通して免償を自分のために獲得する。また聖徒の交わりの神秘のうち死者ともつながっているから、死者のためにも獲得できる。教皇は昨年九月、新福音化推進評議会議長に「いつくしみの特別聖年」に際して与えられる特別免償に関する書簡を送った。書簡の邦訳はカトリック中央協議会のホームページに掲載されている。それによると、この期間中に免償を得るために以下のこと

が求められている。①司教座聖堂か司教が指定した教会の「いつくしみの扉」(書簡では「聖なる扉」)を巡礼すること。鹿児島司教が指定した教会は、名瀬聖心教会と母間教会。

②いつくしみに関する振り返りのもとに行われるゆるしの秘跡を受け、ミサに与ること。

③教皇のためと教皇が教会と全世界の幸せのために心に抱いている意向のために祈ること。

様々な理由で「いつくしみの扉」をくぐることができないう人々、特に病者や独り暮らしの高齢者に対しては、痛みと孤独の試練の時を、信仰と喜びに満ちた希望のうちに生き、さまざまにメディアを通してであっても、聖体を拝領し、ミサや共同体の祈りに参加する場合は、免償を得られる。

また、精神的、身体的な慈善のわざ(※)をこの聖年に一人の信者が一つ以上果たすなら、その都度免償を受けると教皇は述べている。

※精神的な慈善のわざ：疑いを抱いている人に助言

かっついていないのです。彼が感じていた罪とは、財産を「無駄使いしてしまっただけ」です(十五・13)。往々にして、こうした罪悪感、表面的なものであり、

鈴木神父のやさしい言葉

放蕩息子のたとえと回心

回心には至らないもので

では、彼はどこで本当の罪を悟ったのでしょうか。それは、父親に抱きつくめられたときであったと言え

すること、無知な人を教えること、罪人を戒めること、悲嘆に打ちひしがれている人を慰めること、もろもろの侮辱をゆるすこと、煩わしい人を辛抱強く耐え忍ぶこと、生者と死者のために神に祈ること。

受洗者誕生を喜ぶ

加世田教会

加世田教会(サントス神父)では昨年十二月に七人、一月に二人と近年になく多くの洗礼があり、教会は大きな喜びに包まれました。信者一同神様のお恵みに感謝しています。



一家六人で受洗したご一家

身体的な慈善のわざ：飢え乾いている人に飲食物を与えること、着る物が無い人に衣服を与えること、宿のない人に宿を提供すること、病者を訪問すること等(大勅書十五)。

国分教会献堂式

2月11日(木) 13時

- 12:30 受付開始
13:00 献堂記念ミサ
14:30 記念式典
15:00 祝賀式

霧島市国分中央3-13-18

大齋と小齋

大齋は、一日に一回だけ十分な食事とそのほかに朝ともう一回わずかな食事をとることができ、満十八歳以上満六十歳未満の信者が守ります。小齋は、肉類を食べないことですが各自の判断で償いの他の形式、とくに愛徳のわざ、信心業、節制

のわざの実行をもって代えることができ、満十四歳以上の信者が守ります。どちらの理由がある人は免除されます。大齋と小齋を守る日は灰の水曜日と聖金曜日(復活祭直前の金曜日)、小齋を守る日は祭日を除く毎金曜日です。(カトリック教会情報ハンドブックから)

たされていたことに今まで気づかなかったことである、と思い知ったのです。父親はまだ遠く離れていた息子を「見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻(しませ)した」(十五・20)。この父親と同じように天の父も私たちが放蕩息子のようにご自分に立ち返ることを望まれています。忘れてはならないことは、神様との交わりを絶つのは常に人間である、ということなのです。

うするのであれば、神様は過去の罪の清算ではなく、新たに生きることを私たちに求めます。この求めに応じるのであれば、神様にとっては宴会を開くほどの喜びとなるのです(十五・22)。

カトリック通信講座のご案内
1972年開設以来の信頼と実績。『聖書入門〔I〕』のコラムには、Sr.渡辺和子も登場。2015年春に「幸せな結婚」のテキストをリニューアルしました。
<全7講座>
T001=キリスト教とは キリスト教の概要
T002=聖書入門〔I〕 四福音書(イエスの生涯)
T003=キリスト教入門 秘跡や信仰生活(洗礼準備にも)
T004=神・発見の手引 人生、自然を通して神へ
T005=聖書入門〔II〕 使徒言行録・書簡・黙示録
T006=幸せな結婚 結婚の意味や愛、幸福

T007=生きること・死ぬこと 命に関する問題
<受講料>(教材費・税込)
T001~T004 各4,800円
T005~T007 各5,300円
<お申込み>
郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001~T007)をご記入のうえ、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。
振替口座番号:00170-2-84745
加入者名:オリエンズ宗教研究所
<お問い合わせ>
オリエンズ宗教研究所「カトリック通信講座」
TEL03(3322)7601
FAX03(3325)5322
詳細はホームページをご覧ください。
URL:http://www.oriens.or.jp

+KABAYAN SEKSYON+
Pagtatagpo at Pagbubuklod
Sa mga pangunahing kaisipang pangteolohiya at obligasyong pastoral ni Kardinal Jorge Bergoglio, ngayon ay Papa Francisco, dalawang ideya ang angat sa lahat: pagtatagpo at pagbubuklod.
Dahil si Rabbi Abraham Skorka, Rektor ng Latin-Amerikano Seminaryo ng mga Rabbi sa Buenos Aires ang nagpatunay nito, siya ay mapagkatiwalaan. Bilang paglilinaw hindi natin tinutukoy ang abstraktong pag-unawa, kundi isang "kalagayan ng armoniya sa pagitan ng mga tao, kung saan bawat isa, taglay ang kanyang mga katangian, ay nag-aambag sa material at espirituwal na pag-unlad ng kapwa, bunsod ng pag-ibig".
Gayon din naman lubhang naging malinaw si Papa Francisco tungkol sa mga batayang pagpili para sa Simbahan sa kanyang tungkulin ng ebanghelisasyon: "Hindi para bawasan o alisin ang anumang tuntunin, o para gawing magaan ang anumang bagay, kundi lalong mahalaga na magtungo sa mga lansangan para hanapin ang mga tao, para makilala ang mga tao sa pangalan nila. At hindi lamang sapagkat ang paghayo para ipamansag ang Ebanghelyo ay kanyang misyon, kundi dahil ang pagkabigong gawin ito ay magdudulot ng pinsala. Kapag nilimitahan ng Simbahan ang sarili niya sa mga gawaing administratibo sa parokya, at namumuhay na sarado sa kanyang sariling pamayanan ay tulad din ng nangyayari sa isang taong nag-iisa: nanghihina ito sa kanyang aspetong pisikal at mental. O bumababa ang uri nito tulad ng isang saradong bahay-paupahan na pinamamahayan ng mga amag at kahalumigmigan."
Isang taon na ang nakalipas ng dumalaw sa ating bansa si Papa Francisco. Huwag po sana nating makalimutan ang mga binitiwang niyang mga mensahe para sa lahat ng mga Pilipino at sana maisabuhay natin ang mga mensaheng dala niya.
Pagdalaw ni Papa Francisco sa Pilipinas (Fr. Dino Orolfo)